

## みやざき

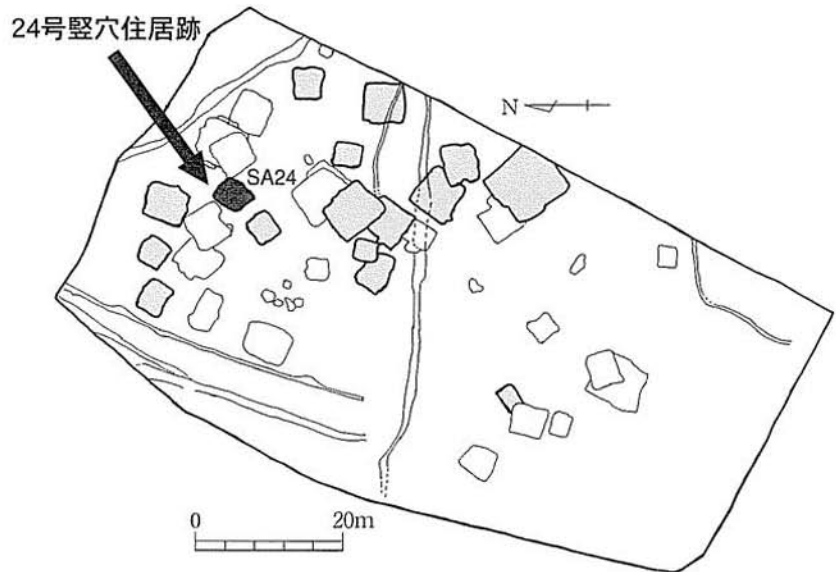
発行日 平成19年3月20日  
 発行 宮崎県埋蔵文化財センター  
 本館 〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地  
 分館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番地4号

## 東九州自動車道(都農～西都間)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査情報

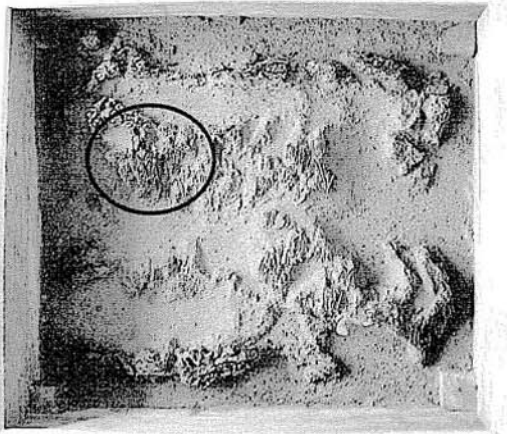
●<sup>おばな</sup>尾花A遺跡(川南町大字川南) 平成16年9月～平成18年11月の調査

<sup>おばな</sup>尾花A遺跡は、国光原台地の縁辺部に位置する遺跡です。周辺には、<sup>ゆむた</sup>湯牟田遺跡・<sup>こっこうばる</sup>国光原遺跡・<sup>あかさか</sup>赤坂遺跡などの弥生時代後期から終末期を中心とする集落遺跡が見つっています。尾花A遺跡は、それらの時代に続く古墳時代前期を中心とした集落遺跡です。本年度の調査は、第三次調査にあたり、調査区を便宜上A～Cの3区に分けて行いました。本年度の調査では弥生～古墳時代の竪穴住居跡が148軒、縄文時代の集石遺構98基、土坑132基を確認するなど多大な成果を上げました。なかでも住居の柱や屋根材として使用されていたと思われる木や藁状の炭化材が52軒の住居跡から検出され、何らかの理由で住居が燃えた「焼失住居」と考えられています。

尾花A遺跡第三次調査のC区は、縄文時代早期の遺構である集石遺構を32基、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡として、竪穴住居跡38軒を検出しています。この中で、焼失住居は16軒見つっています。写真は24号竪穴住居跡で見つかった藁状の炭化材(拡大写真)ですが、繊維一本一本までが鮮明に残存しています。



C区遺構分布図 ※網掛けは焼失住居を示します。

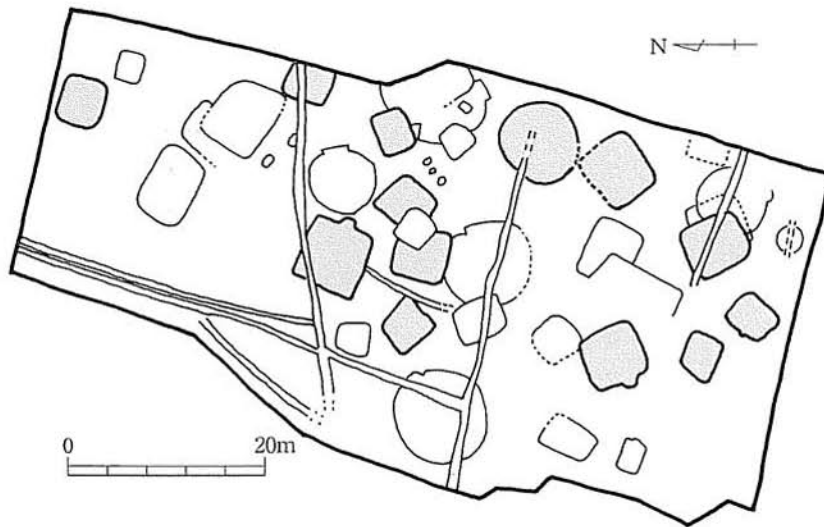


24号竪穴住居跡から出土した藁状の炭化材



一本一本の繊維が残っています

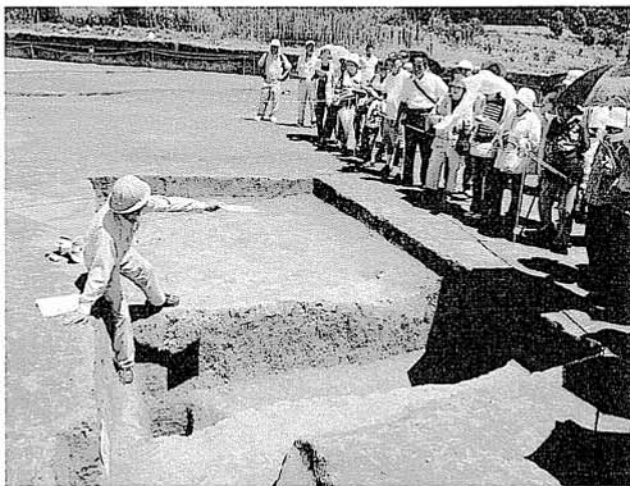
尾花A遺跡第三次調査のA区では、縄文時代早期の46基の集石遺構を検出しています。礫構成としては、砂岩の割合が高く、配石をもつものは少ない状況です。また、弥生～古墳時代の遺構として、竪穴住居跡34軒（円形：7軒、方形：27軒）、溝状遺構1条、土坑約10基を検出しています。住居には、ベッド状遺構や雨の浸入を防ぐ壁帯溝をもつ住居などがあります。



尾花A遺跡（第三次調査）：A区遺構分布図 ※網掛けは、焼失住居13軒を示します。

## 東九州自動車道(門川～日向間)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査情報

いたびら  
●板平遺跡（日向市大字富高）平成17年10月～平成18年10月



現地説明会



高坏、甕、壺などの出土遺物

板平遺跡は、日向市北西部の富高川左岸段丘上に位置し、平成17年度からの継続調査です。本年度の調査では、旧石器時代から中世にわたっての遺構・遺物が見つかっています。縄文時代早期の炉穴<sup>ろあな</sup>を単独5基・切り合い2群（7基）、集石遺構を19基検出しています。集石遺構は配石を有する割合が高く、大きさは80cm四方程度です。また、弥生時代終末から古墳時代前期の竪穴住居跡4軒を検出し、平面形方形で大きさは5m×5m程度です。なお、埋土中から土師器片（二重口縁壺、高坏脚部等）が出土している10号竪穴住居跡は炭化物や焼土が検出され、焼失住居と考えられます。そのほか、包含層を中心に土師器、石庖丁、石錘、石鏃、車輪石、勾玉等も出土しています。中世の掘立柱建物跡は10棟検出しています。3間×2間の大きさのものが多く、柱穴に根石が見られるものもあり、柱穴の埋土中より、土師器、青磁、古銭などが出土しています。

# 一般国道218号北方延岡道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査情報

## ●<sup>くろにた</sup>黒仁田遺跡（延岡市北方町）平成18年5月～平成18年12月

黒仁田遺跡は、延岡市西部の北方町に位置し、五ヶ瀬川と曾木川との分岐点北側の標高約66mの丘陵上に広がる古墳時代前半の時期（一部は弥生時代に上る可能性がある）を中心とする集落遺跡です。調査では、アカホヤ火山灰土層（第Ⅲ層）上面において竪穴住居跡が12軒、土坑4基、多数の小穴（ピット）を検出しています。

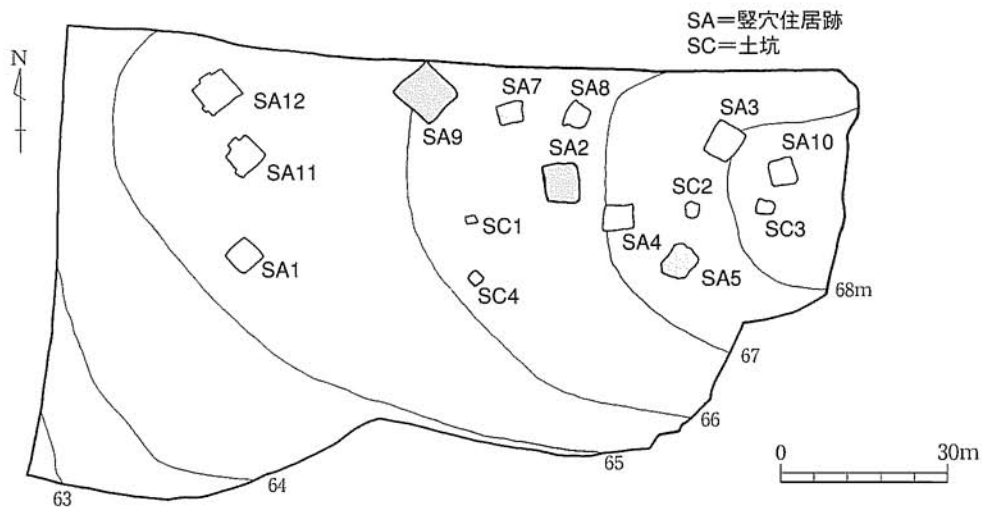
竪穴住居跡は、地面を深さ約80cmで方形に掘り込み、貼床がなされているものや、床を高くしてベッド状遺構を作っている住居もあります。住居の平均的な大きさは、約5m×5mですが、約8m×8mの大型住居も1軒あります。これらの遺構からは、土師器の甕や壺、石庖丁、<sup>てつそく</sup>鉄鏃などが出土しています。さらに、4基検出された土坑の規模は、長辺約2～4mのもので、そのうちの1つ（4号土坑）には、土器が高密度で出土しており、土器廃棄の目的で掘られた穴ではないかと考えられます。



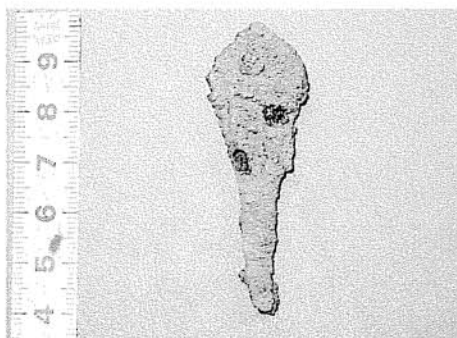
9号竪穴住居跡出土の複合口緑壺



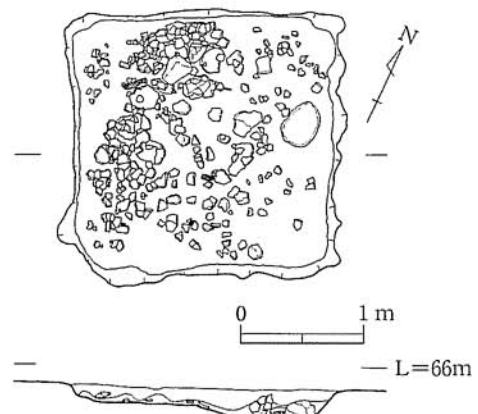
4号土坑：廃棄された土器



黒仁田遺跡：竪穴住居跡、土坑分布図



2号竪穴住居跡出土鉄鏃

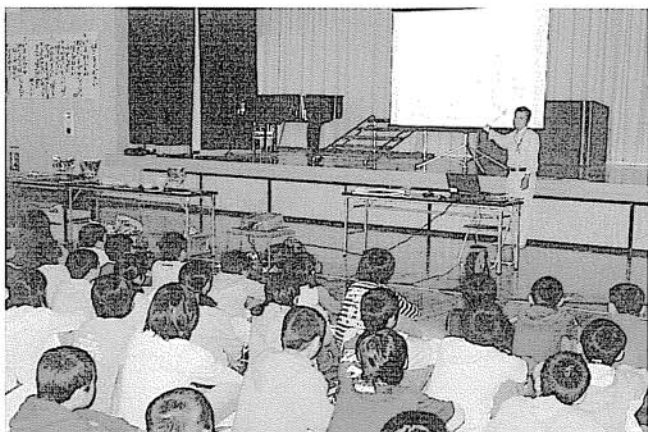


4号土坑遺物出土状況図



## さまざまな普及活動を行っています！

### 出前講座（都城市立高城小学校）



10月25日（水）に、6年生を対象に出前授業を行いました。「大昔の人の生活」というテーマで、小学校周辺や都城市内の遺跡の遺構（竪穴住居跡等）や遺物（縄文土器、弥生土器等）をもとに、この地方の縄文時代から古墳時代にかけての人々の生活の様子を子どもたちに考えてもらいました。子どもたちは、高城地区でもたくさんの土器が見つかることに大変驚き、本物の土器をみたり、触ったりしたことで、大昔のことを身近に感じることができたようです。

### 施設公開



今年度の施設公開は11月5日（日）、分館と本館の2会場で行いました。従来分館のみで実施していましたが、宮崎市佐土原町の本館でも行いました。土器を片手に記念撮影をしたり、整理作業の流れを実際にたどってみるなどさまざまな体験活動にふれ、参加された方々も満足された様子でした。

### 「遺跡が語るひむかの歴史2006」

平成17年度の発掘調査についての講演が7月29日（土）県立図書館視聴覚室で行われました。発掘調査によって得られた旧石器時代から中世に至る14遺跡の調査成果が発表されました。

### 「ここまでわかったひむかの歴史2006」



昨年度の埋蔵文化財講座「遺跡をたずねて」を改題し、今年度は6講座を開講しました。上の写真は、1月に開催した『宮崎の狩人たち』の場面です。展示してある遺物の解説をまじえながら、旧石器時代の人々の生活についての説明がなされました。

### 第2回発掘体験（黒仁田遺跡）



平成18年度の発掘体験は、「発掘体験隊 かくれた歴史 みつけた!!」をテーマに、小学生から一般を対象に2回開催しました。1回目は、7月2日（日）、尾花A遺跡（川南町）で開催。2回目は10月7日（土）、古墳時代集落の黒仁田遺跡で竪穴住居跡を掘り下げる発掘体験活動を行いました。参加者14名は初め緊張気味でしたが、土の中から遺物が出てくる度に歓声がわき、楽しく、真剣に発掘に取り組んでいました。

## 宮崎県埋蔵文化財センター

本館：〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地 TEL 0985-36-1171, 1172 FAX 0985-72-0660  
分館：〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番地4号 TEL 0985-21-1600 FAX 0985-26-2634  
HPアドレス：<http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/index.html>